

## ⑫ 公開特許公報(A)

平2-285172

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>E 04 H 1/12  
H 04 N 5/64  
5/72

識別記号

3 0 1

庁内整理番号

7606-2E  
7605-5C  
7605-5C

⑭ 公開 平成2年(1990)11月22日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 浴室ユニット

⑯ 特 願 平1-108664

⑰ 出 願 平1(1989)4月26日

⑱ 発 明 者 長 谷 川 光 弘 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
 ⑲ 発 明 者 渋谷 誠 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
 ⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地  
 ㉑ 代 理 人 弁理士 栗野 重孝 外1名

## 明 細 書

## 1、発明の名称

浴室ユニット

## 2、特許請求の範囲

壁面に凹部を形成し、この凹設部内に画面を浴室室内側に向けてテレビ受像機を配設するとともに、前記凹設部の開口面をハーフミラーで閉塞してなる浴室ユニット。

## 3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、浴室ユニットに関するものである。

従来の技術

従来の例えば第4図は、浴室ユニットの全体を示す一部切欠斜視図であり、1は浴槽と洗い場が合成樹脂により一体に形成された洗い場付き浴槽、2はその外周部である。3は壁であり、外周部2に載置され、かつ嵌合されている。4は水栓金具、5は鏡で、壁3に取付けられている。6は天井で、壁3の上端部7に載置され、かつ固定されている。上記のように従来のこの種の浴室ユニットは身体

を洗浄、保温するというだけの考えのものであり、快適さ、あるいはくつろぎという点で満足のものではなかった。そこで、第5図、第6図においても従来例を示しており、第6図は第5図の要部断面図であり、8は壁3に設けた窓孔である。9は箱体で、浴室内に向かって開口部10を有している。11は箱体周辺に設けたフランジである。箱体9は浴室よりも外方に膨出して取付けられている。12は箱体9を壁3に取付けられているビスである。13は箱体9のフランジ19と壁3との間に設けた防水パッキンである。14は箱体9の開口部10を覆う透明板であり、15は透明板14と箱体9のフランジ18の間に設けた防水パッキンである。16は取付具であり、透明板14をフランジ19に当てインサートナット17Aを設けた支持部17に着脱自在に取付けられており、20は箱体9内に載置したテレビ受像機である。第4図の従来例のような洗浄、保温の快適さに加えテレビ観賞ができるという入浴の快適さが向上した。発明が解決しようとする課題

ところが、このような浴室側に向けてテレビ受像機を配設し、開口面を透光材で閉塞した浴室ユニットにおいては、入浴する人がテレビ観賞をしたくない場合テレビ受像機は不必要な存在であり、入浴中テレビ受像機が目障りとなり違和感を与え、入浴の快適さや、安らぎを損ねてしまうという相反するという非常に困難な問題があった。

本発明は、このような従来の問題点を解消するものであり、浴室でのテレビ観賞ができる入浴の快適さと、テレビ観賞を必要としない時のテレビ受像機の存在観を無くし浴室に違和感を無くすことにより快適な入浴ができることを目的とする。

課題を解決するための手段

上記目的を達するため、本発明の浴室ユニットは、浴室内壁面に凹部を形成し、この凹設部内に画面を浴室内侧に向けてテレビ受像機を配設するとともに、前記凹設部の開口面をハーフミラーで閉塞した構成である。

作 用

本発明の浴室ユニットは、上記凹設部の開口面

をハーフミラーで閉塞する構成により、テレビ観賞をしたい時は、テレビ受像機からの発する光の映像がハーフミラーを透過してテレビ観賞ができる。また、テレビ観賞を必要としない時は、テレビ受像機が通電されていないためテレビ受像機から発する光の透過がないため普通の鏡と同様に浴室に写すためテレビ受像機の存在観がなく目障りになることなく快適な入浴ができるという効果を有するものである。

実 施 例

以下、本発明の一実施例について図面に基づき説明する。

第1図は本発明による浴室を示す一部切欠斜視図であり、第2図はその断面図を示し、第3図は要部断面図である。

9は箱体で、浴室内に、向かって開口部10を有している。19は箱体周辺に設けたフランジである。

箱体9は浴室よりも外方に膨出して取付けられている。

12は箱体9を壁3に取り付けているビスである。13は箱体9のフランジ19と壁3の間に設けた防水パッキンである。30は箱体9の開口部10を覆うハーフミラーであり、15はハーフミラー30と箱体9のフランジ18の間に設けた防水パッキンである。16は取付具であり、ハーフミラー30をフランジ19に当てインサナット17aを設けた支持部17に着脱自在に取付けられており、20は箱体9内に設置したテレビ受像機である。

発明の効果

以上のように本発明の浴室ユニットによれば、入浴しながらテレビ観賞をしたい時は、テレビ受像機からの発する光の映像がハーフミラーを透過してテレビ観賞ができ、テレビ観賞したくないときには、テレビ受像機に通電させないのでテレビ受像機からはる光の映像の透過がないため普通の鏡と同様であり、浴室を反射した像が写るためテレビ受像機の存在観がなくテレビを見たくないひとや、テレビの嫌いな人にも目障りになる

ことなく快適な入浴を得ることができる。

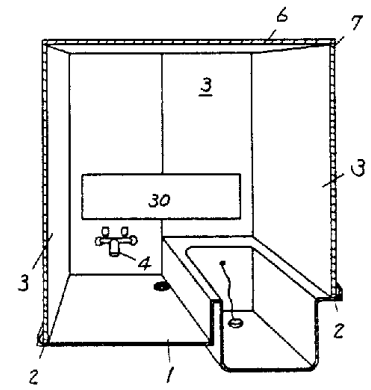
#### 4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例における浴室の側面断面図、第2図は同外観斜視図、第3図は第2図の要部断面図、第4図は従来例を示す一部切欠斜視図、第5図も従来例を示す一部切欠斜視図、第6図は第5図の要部断面図である。

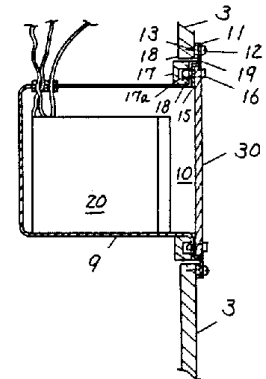
1……洗い場付浴槽、3……壁面、10……開口部、20……テレビ受像機、30……ハーフミラー。

代理人の氏名 弁理士 栗 野 重 孝 ほか1名

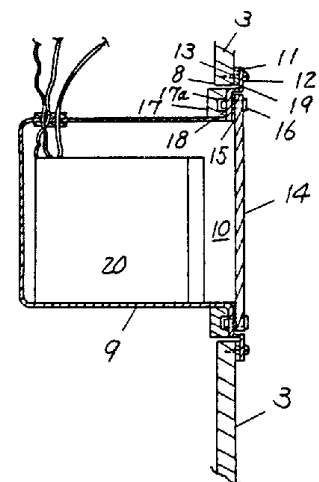
第 2 図



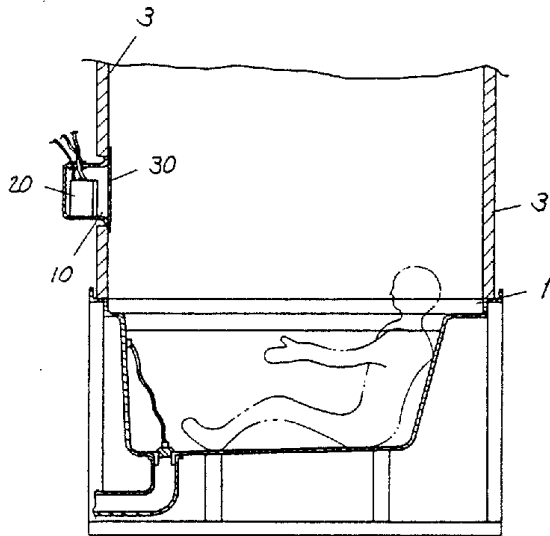
第 3 図



第 6 図

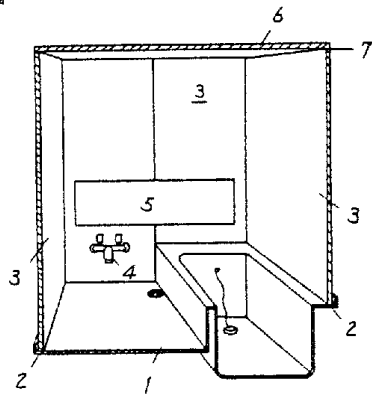


第 1 図



- 3 ... 壁面
- 10 ... 開口
- 20 ... テレビ受像機
- 30 ... ハーフミラー

第 4 図



第 5 図

